

# ねむろトピックス

## 睦の園幼稚園のおともだち

糖・まみぎくになった



ひらた かな  
平田 花奈ちゃん (3才)  
“看護師になって  
病気をなおしたい”



うめむら あゆむ  
梅村 歩夢くん (6才)  
“警察官になって  
みんなをたすけたい”



みやかわ なみ  
宮川 七海ちゃん (5才)  
“バレリーナになって  
すてきに踊りたい”

DREAM



9月2日、根室半島南東沖を震源に大規模地震が発生したと想定して、平成20年度根室市総合防災訓練が花咲港東埠頭を会場に、32機関が参加し実施されました。

9月6日・7日の2日間、根室港特設会場で「2008根室かに祭り」が開催され、市内はもとより、全国各地から約14,000人が訪れ、根室の代表的な味覚「花咲かに」を堪能しました。



9月20日、北海道日本ハムファイターズのマスコット「B☆B」が212物語の撮影のため来根し、写真撮影や握手・サイン会などが行われた交流会には、多くのファンが参加しました。

## 春国岱原生野鳥公園 ネイチャーセンター



〒086-0074  
根室市東梅103番地  
☎0153-25-3047

### 「タンチョウの暮らし」

今年3月、根室の湿原にタンチョウが戻ってきました。昨年と同じ所に戻ってくるもの。少し場所を変えるもの。よい条件で子育てをできる場所にならば作りします。4月後半、月はじめの大雪のせいで少し遅れての産卵でした。そして5月後半、かわいいヒナが誕生しました。

ある日、春国岱の観察路を歩いていると、急にタンチョウが鳴きました。目を向けると、数十メートル離れた草むらにタンチョウが立っています。次第に遠ざかってくれたので、ホッと進んでいくと、また別のタンチョウが鳴き始めました。2羽のタンチョウは、鳴き声を交わしながらどんどん近づいていきます。これ以上驚かせてはいけな

いと立ち去ろうしたとき、タンチョウ夫婦の足元に、茶色いヒナが顔を出しました。どおりで飛んで逃げない訳です。あわててその場を立ち去りました。ネイチャーセンターでは、風蓮湖・春国岱周辺のタンチョウの生息調査をしていますが、子育ての邪魔をしないように望遠鏡を使って遠くから観察をするため、こんなに近くで出くわすことはめったにありません。残念なことに、このとき出会ったヒナはその後1、2週間のうちにいなくなりました。タンチョウのヒナが育つ確率は、そう高くないのです。

厳しい自然の掟の中、ヒナたちは、8月中旬ころから飛び始め、親についてエサのとり方や飛び方を練習し、たくましく育ってきました。そして、10月中旬を過ぎるとヒナたちは親と一緒に刈り取った後のデントコーン畑などでエサをとりつつ、越冬地である鶴居村などに旅立って行きます。



また来春、根室の湿原に戻って来てくれるように、繁殖に適した湿地を守ることが必要となっています。  
(レンジャー 手嶋 洋子)